

発行：ひたちなか市の環境を良くする会
 会長 栗田 裕子
 編集：広報委員会
 監修：ひたちなか市環境保全課
 TEL：029-273-0111 (内3312)

環境から版

環境四季時計「冬祭り」

環境シンポジウム開かれる

また、茨城高専ジャグリング同好会のアトラクション

2月11日(水・祝)午後1時30分からワークプラザ勝田(多目的ホール)にて、市と本会共催の「環境シンポジウム」が開催されました。参加者は約260名でした。

リング同好会のアトラクションや事業所会員から提供をいただいた景品の抽選会で盛り上がり閉幕しました。



茨城高専ジャグリング同好会のアトラクション

本間市長と栗田会長の挨拶後、26年度「環境保全啓発ポスターコンクール」の受賞式を行い、次いで、3学校と1事業所の環境活動報告と質疑応答が行われました。発表後、市の木下教育長から、3つの学校に共通していることは、豊かな感性を働かせながら、体を使って、実感的に学んでいることで、今後もそうした学び方に自信を持って続けてほしいとあり、続いて茨城大学 原口教授は、ピオトープの名人である砂押園芸の活動は、もともと地域にある資源を見いだして、形づくっている」と評されました。

シンポジウムの発表者とその概要



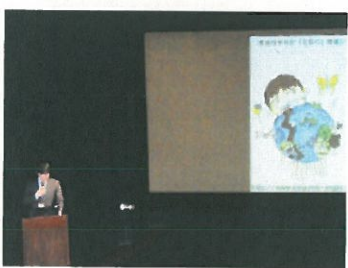
堀口小学校 学校の周りの美しい自然をいつまでも守りたいという願いで、多岐にわたる活動の発表がありました。



三反田小学校 1~6年生のリレー劇で私たちのまち「三反田」での日々の体験活動から学んだことの発表がありました。



阿字ヶ浦中学校 13年前からの先輩の研究を引き継いでいる沢田湧水地の保護活動やスカシユリの球根栽培の発表がありました。



株式会社砂押園芸 ピオトープ事業部の活動(ほたるプロジェクト・学校ピオトープ支援活動・自治会ピオトープ支援)の紹介がありました。

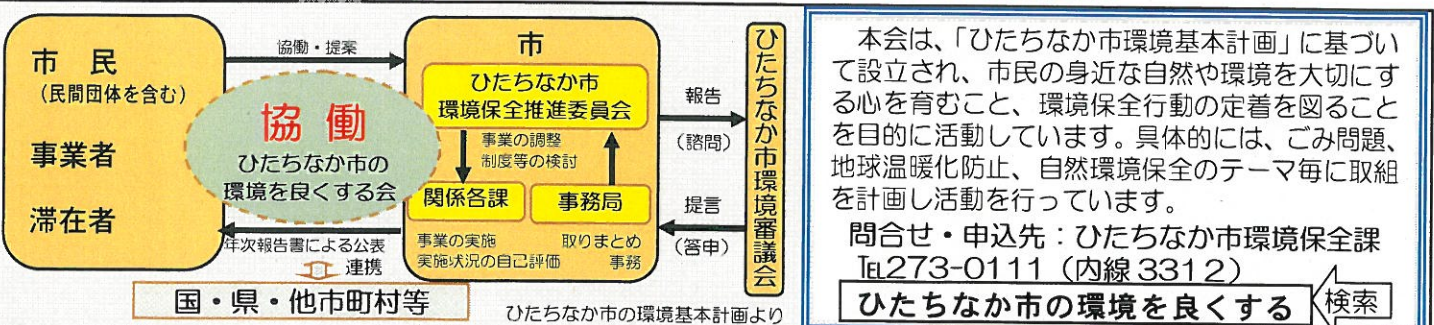
温暖化防止啓発キャンペーン行われる

1月16日(金)

午後4時から、勝田駅東口、西口、改札口周辺で、冬の温暖化防止啓発活動を行いました。

参加者は、市の職員と本会員で、

「温暖化防止のチラシ」と「環境シンポジウムの案内」と「マスク」をセットにして約1000部を渡すことが出来ました。女性や中学生がよく受け取って下さいました。



生ごみ堆肥化実証試験

昨年6、7月に仕込んだ生ごみが今年2月に完熟堆肥として完成し、6名の協力農家の方には2月下旬までに分配しました。行政の支援により4年間にわたり進めてきた生ごみ



干し芋堆肥加工残渣
堆肥の寒仕込み



干し芋加工残渣

干し芋加工残渣堆肥化に挑戦

堆肥化実証試験は終了しました。本会としてはこの成果を基に市の生ごみ堆肥化実現に向けて総まとめに入ります。

生ごみを提供して下さった津田東自治会の55名の皆様に、アンケートをお願いし、49名の方から貴重なご意見ご感想をいただきました。これをまとめ完成堆肥を添えて、3月下

自然環境整備 着々進む

■竹林の間伐。

美多田町地区で、10月～2月まで5回実施し、間伐予定面積の約70%が終了しました。参加者は延べ90人でした。個人会員・事業所会員(リコーイングダストリー・日立工機)の

旬までには全員の方にお届けする予定です。

昨年12月に開始した、干し芋加工残渣の堆肥化試験は、発酵が順調に進み1月7日時点で甘い香りでした。さらに良質な堆肥に向かい甘酸っぱい匂いに変化しました。

原材料は糖質が多いため分解スピードは速いのですが、配合材料のおが屑やもみ殻は分解しにくいために、堆肥の完成は6月頃になります。

他にも、水戸森林クラブや一般の方にも参加していただきました。

間伐竹の一部は、自主活動班「竹の会」の竹炭焼きに利用されました。

■名平洞への竹いかだ設置。
間伐竹で作成した、いかだ1艘を設置しました。

■アジサイの植栽。

那珂湊体育館臨時駐車場西側の斜面に、アジサイ20株を植えました。今後増やしていく予定です。

■そばの栽培

美多田町の休耕地を利用して栽培。会員手作りの脱穀用農具(千歯扱き)を使って収穫しました。



会員手作りの千歯扱き

わがまちの環境活動

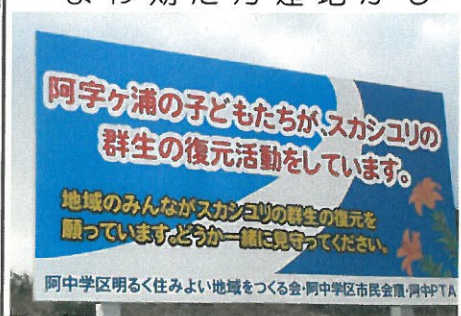
「生徒たちの手でスカシユリの群生の復元を目指す」
阿字ヶ浦中を訪ねる

昭和年代の夏、阿字ヶ浦海岸を走る道路の縁の砂地に、スカシユリのオレンシ色の花が一面に咲いていました。しかし平成に入り、自然環境の変化の影響か、盗採の影響か、その数は減り、絶滅が心配されていたそうです。

阿字ヶ浦中学校は、海浜公園内にある沢田湧水地の環境保護活動が盛んで、スカシユリの群生の復元活動にも取り組んでいます。現在は、各学年からの希望者4名総勢12名からなる沢田・スカシユリ研究班として活動しています。

研究班の調査活動の一つ、阿字ヶ浦海水浴場道路脇の砂地にスカシユリの球根を植え、生育を観察している場所を案内して頂きました。

真新しい看板があり、地元の人達や先生方の生徒たちへの期待が伝わってきます。



阿字ヶ浦の子どもたちが、スカシユリの群生の復元活動をしています。地域のみんがスカシユリの群生の復元を願っていますどうか一緒に見守ってください。阿字ヶ浦学区明るく住みよい地域をつくる会・阿字ヶ浦学区市民会・阿字ヶ浦PTA

スマートフォンプロジェクト モニターに11名参加 私たちができる温暖化防止対策の一つはエコドライブやスマートフォンでの励行です。 「スマートフォン」とは、通勤・通学・買い物・旅行などにおける日々の「移動」に公共交通機関や自転車を利用して「エコ」にする新たなライフスタイルのことを言います。 昨年夏から約3か月の間、県の地球温暖化防止活動推進センターが、スマートフォンプロジェクトのモニ

ターを募集しましたところ、本会から11名が参加しました(県全体では2,154名)。この間、参加した会員は、「エコドライブ10か条」などを参考に、燃費向上の体験や、車以外の交通手段を選んで「スマートフォン」に努め、その結果をセンターに報告しました。 参加した会員からは「車から、徒歩・自転車・公共交通機関に代えて、健康のためにも良く楽しかった」などの感想がありました。皆さんもぜひ挑戦してみましよう。

第5回環境ディスカッション開かれる

再生可能エネルギーの利用を目指して

2月1日(日)午後1時30分から生涯学習センターにて、本会員16名参加により、第5回(本年度第3回)環境ディスカッションを開催しました。

栗田会長挨拶の後、3人のパネラーによるミニパネルディスカッションが行われました。

パネラーとテーマは、小川会員「マイクロ水力発電について」、渡辺(和)会員「造成中の親水公園に小水力発電を」、栗田会長「上坪浄水場の水力利用について」でした。その後、「実行プログラムをつくる」ためのテーマ12個を全員で提案し、その中から関心度が高かった4テーマを選びました。

④自分たちで出来る事を市民として見つけて行く

この4件の中から、各自選択した結果、②③④の「実行プログラムをつくる」3チームが結成され、チームごとにディスカッションし、実行プログラムの発表を行いました。

②チームは平成28年4月以降の発電開始を目指し、竹の安定供給と間伐人員確保の課題解決に向け、本年5月から調査を始めます。

③チームは「小型携帯太陽光発電機家庭内利用実験」の報告発表のため、2月から実験を開始しました。発表は5月の予定です。

④チームは「誰でもできる発電方法をPRする」を主眼として、発電装



ディスカッション風景

- ①上坪浄水場の水力発電
- ②竹間伐材利用で発電出来ないか
- ③小型携帯太陽光発電機の普及



2014 消費生活展アンケート

「おしえてください」の集計より

答えてくださった方 500名

- ◆ひたちなか市の環境を良くする会を知っていますか? という質問に「はい」と答えたのは5人に1人。まだまだ会を知らない人が多かった。
- ◆どんな講座、イベントなら参加したいか? については、回答が、ごみ問題、温暖化、自然環境等、多岐にわたっていた。その中で、「子ども達に参加できる」や「体験型」を希望する声が多かった。
- ◆環境について知りたいことは? については、温暖化の影響、自然破壊や放射線の現状などの回答が多かった。私たちの住む環境のありのままの様子を把握しておきたいと考えている意見が多かった。
- ◆環境の未来像 についても、内容は多岐にわたっているが、ごみが削減され、自然が保護され、子ども達が未来に希望が持てる健康的な生活が出来る環境を望んでいることが分かった。

ご協力ありがとうございました。

置の作り方などのマニュアルを2〜3年かけて作成する事になりました。

チーム内討議と発表資料作りは今回も真剣に進められ、ミニパネル

ディスカッションでの質疑応答がテーマの整理や課題解決の一助になりました。

次回は各チームの更なる具体化が楽しみです。

県準絶滅危惧種

カヤラン(ラン科)を守る

市内の風致地区に自生していた「カヤラン」が一昨年5月中旬に盗まれました。この花は背丈10cm位で4~5月に2cm位の淡黄色の花をつけます。この大きさになるには約30年かかると言われ、大変貴重なものです。

これらの植物の盗採は以前から多く、早急に盗難防止策が必要と言われており、平成25年2月にカヤランの保護を教育委員会にお願いしています。

現在、里山などの動植物は非常に減少してきています。これらの動植物の保護により子どもや孫たちに残す財産を少しでも多くしたいと思っています。

のです。今や「一人のもの」ではありません。また自宅へ持ち帰っても環境が違い2年と生育出来ません。絶対に盗採は止めて下さい。

会員を募集しています

身近な環境活動に興味がある方。団体・事業所でも参加できます。一緒に活動しませんか?

問合せ・申込先

ひたちなか市環境保全課
Tel 273・0111
(内3312)

「食品包装材に思うこと」

スーパーマーケット
株式会社 セイミヤ

ひたちなか市の環境を良くする会(本会)設立以来の協賛会員のスーパーマーケット「株式会社セイミヤ馬渡店」にお伺いして、環境対応についてのお話を伺いました。

【マイバックの普及率は?】

ほとんどのお客様がマイバックを持参されていて、スーツ姿の男性の方はレジ袋をお求めになる事が多いようにお見受けします。

【お客様のリサイクル意識は?】

使用後の「トレイ」や利用済「PETボトル」のリサイクル意識は高いと感じます。「トレイ」は殆ど洗ってからリサイクルステーションにお持ち下さっています。

「PETボトル」は設置した「粉砕機」をご利用頂き、1日約2,400本の回収実績が続いています。重量にして約70~85kgになっています。

【お忙しい中、ありがとうございました】



PET ボトル回収機内部 (左写真)

粉砕されたPET ボトル



編集者だよ

森林保全活動の竹林伐採を通して、竹との関わりも約5年になる。伐採する時の竹の間隔は、傘をさして通れるくらいにするのだそうだ。今のところは、枯竹の伐採が中心である。

伐採した竹は、一部は利用されているが、ほとんどはそのままになっている。改めて、その利用について調べてみたら、広範囲で驚いた。建材、日用品、工芸品、玩具、楽器、食材、薬、紙、バイオ燃料等物品の種類が100近くあった。

草と木の中間とも言われるこの植物の何にでもなれる偉大さを感じた。成長が早く再生性の強いこの植物の需要の増加を望みたい。(石井)

ひたちなか市の環境を良くする会 事業所会員の紹介

<p>廃棄物からエネルギーへ</p> <p>私たちの使命は、環境を良くすること</p> <p>株式会社 エコエナジー</p> <p>〒312-0004 茨城県日立市大井町1-1-1</p> <p>TEL 0293-272111 FAX 0293-272112</p>	<p>100% 脱石油</p> <p>化粧品・日用品・アロマまで、石油系化学物質を使わない、人と環境を守る製品です。シナリー櫻季(株)</p> <p>TEL029-271-0766</p>	<p>ひたちなか・東海ハイトラスト株式会社</p> <p>ひたちなか市新光町103-2</p> <p>TEL(029)265-5371</p>	<p>セイミヤ</p> <p>ひたちなか馬渡店</p>	<p>Bio Power</p> <p>木質バイオマス発電所(株) バイオパワー勝田</p> <p>ひたちなか市高野1974-1</p> <p>TEL029-270-3341</p>
<p>Hitachi Koki</p> <p>日立電動工具</p>	<p>私たちは、美しい地球を次の世代へ!</p> <p>のスローガンのもと、一丸となって地球環境の継続的改善と環境汚染予防活動を推進しています。</p> <p>株式会社 日立製作所水戸事業所</p>	<p>ガーデン・エクステリアのデザイン・施工</p> <p>Maki planning</p> <p>http://www.maki-planning.com/</p> <p>Mam's garden</p> <p>http://www.mam-garden.com/</p>	<p>リコーインダストリー(株) 勝田事業所</p> <p>インクジェットヘッド トナーインフラスコ</p> <p>ひたちなか市武田1060</p> <p>www.industry.rioh.co.jp</p>	<p>廃棄物の中間処理施設</p> <p>KATSUTA</p> <p>株式会社 カツタ</p> <p>ひたちなか市高野1968-2</p> <p>TEL(029)270-3711</p> <p>http://www.eco-katsuta.com/</p>